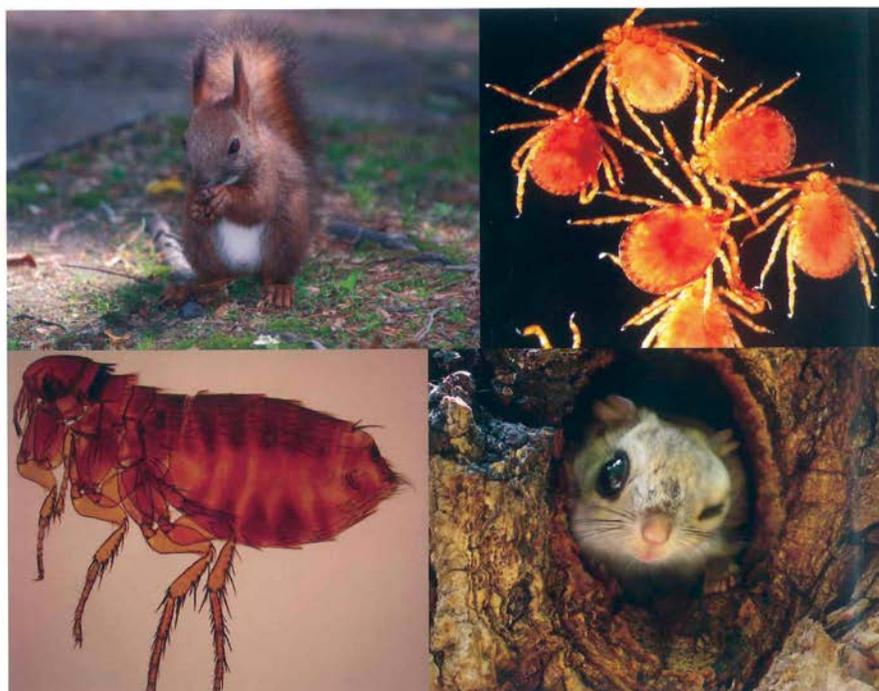




第70回日本衛生動物学会大会特集



Med. Entomol. Zool.

衛生動物

日本衛生動物学会

C111 数種鶏舎における海苔抽出物製剤によるワクモ (*Dermanyssus gallinae*) の対策

○荻野和正¹、小高真紀子²、笠 正二郎¹、浅田研一¹、坂田颯行³、松尾和典⁴、金澤 保¹

(¹産業医大・免疫学寄生虫学、²福岡県農林業総合試験場、³福岡県立八女農高、⁴九州大・大学院比較社会文化研究院)

Control of *Dermanyssus gallinae* in several kinds of poultries with a substance derived from seaweed extracts.

○ Kazumasa Ogino¹, Makiko Odaka², Shojiro Kasa², ken-ichi Asada², Kazuyuki Sakata³, Kazunori Matsuo⁴, Tamotsu Kanazawa¹ (¹ Department of Immunology and Parasitology, University of Occupational and Environmental Health, Japan, ² Fukuoka Agriculture and Forestry Research Center, ³ Fukuoka Prefectural Yame Agricultural High School, ⁴ Biosystematics Laboratory, Faculty of Social and Cultural Studies, Kyushu University)

【背景と目的】ワクモ(*Dermanyssus gallinae*)は主に鶏に寄生する中気門亜目ダニの一種であり、人獣共通感染症を齎す豚丹毒菌、サルモネラ菌、リステリア菌等々家畜伝染病ニューカッスル病ウイルスを媒介する可能性が報告されており、近年、養鶏業界において産業上甚大な被害を与えている。駆除用薬剤に抵抗性を示す系統が次々と出現し、国外では鶏卵や鶏肉にワクモ対策に用いた殺虫剤が残留する事例も報告された。このため、今後のワクモ対策としては、薬剤処理以外の手法も組み合わせた総合的防除を行うことも課題である。本検討に用いられる製剤は海苔抽出多糖類と食品および食品添加物から構成され、ワクモは呼吸器管域(気門・周気管)が封鎖閉塞されるという物理的作用により死に至る。今回、実際の鶏舎における有効性が十分確認されていない本製剤を用いたワクモ対策を仕様の異なる低床式及び高床式鶏舎において行い、効果の検証を行った。【材料と方法】試験は、2016年福岡県内3ヵ所の採卵鶏農場において実施した。ワクモ対策として、試験区は本製剤処理を主たる対策とし、対照区は無処理、または各々の通常行う処理をベースとした対策とした。効果の評価方法は、ケージの卵受けにワクモトラップを設置してのワクモ数調査、ワクモによる汚卵率、2農場では鶏のヘマトクリット値を測定した。【結果と考察】試験の結果、3農場における試験区のワクモ数および汚卵率は対照区と比較して、有意に少なく推移した(GLMM, $P < 0.05$)。また、ヘマトクリット値も試験区は試験期間を通じて対照区より有意に高い数値を保持した(U検定, $P < 0.05$)。